



## 歯学部創設30周年



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 五十嵐 武  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>

昭和大学歯学部は創設30周年を迎えました。

### 歯学部の一層の発展を期して

歯学部長 宮崎 隆

この4月1日付けで歯学部長に再任されました。岡野新病院長と力を合わせて、本歯学部のさらなる発展に鋭意努力する所存です。教職員の皆様のご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。過去4年間、川和前病院長と一緒に歯学部ならびに歯科病院の舵取りをしてきました。臨床系教員の定員削減、臨床系講座ならびに歯科病院診療科の再編、新カリキュラムのスタート、4年生の旗の台校舎移転など本学内の大きな変革だけではなく、共用試験の正式実施や臨床研修の必修化も始まり、まさに内外変革の嵐の中の4年間でした。幸いにも教職員一丸となって取り組み、学生募集、カリキュラム、国家試験、大学院、研修制度はいずれも順調に推移しています。新たな発展を期して、昨年11月には歯学部創設30周年記念行事を執り行いました。また川和病院長のリーダーシップにより、医療を取り巻く環境が悪化している中、歯科病院の医療収入は前年度よりも1億円以上の増収で予算達成したことは大きな自信となりました。



学校教育法が改正され、新たに准教授、助教が導入され、本学は4月から助教が准教授、助手が助教に移行し、講師はそのまま存続させることにしました。これは単に名称の変更ではなく、大幅な教員のキャリアアップです。特に助教がいわゆるアシスタントプロフェッサーとして教育・研究に責任を持つ位置付けですので、これまで本学で力を入れてきたFD(ファカルティーデベロップメント)が花咲くものと期待されます。

今期の目標は以下のとおりです。

1. 歯学部の評価向上: 少子高齢社会を迎えて大学も競争社会に突入しました。生き残りをかけて歯学部の評価を向上し、数字で実績を出していきます。
2. 大学内での歯学部の貢献: 昭和大学の特徴を生かし、医学部、薬学部、保健医療学部との一層の教育連携、共同研究、診療連携を通じて、学内で歯学部ならびに歯科病院の重要性をアピールします。
3. 新カリキュラムの点検と改善: 新カリキュラムがいよいよ完成年度を迎えます。社会と歯科医療、基礎・臨床の統合化、PBLの導入、選択実習など新しい試みを導入してきました。これらについて教育点検委員

会による学部内評価のみならず学内や学外の評価を受けて、FDワークショップを活用してさらにカリキュラムの改善に努めます。

4. 国際交流の推進: 学生の教育活動を中心に海外の多くの大学と交流プログラムを締結し、学生の派遣や受け入れを行ってきました。これをさらに発展させて、学生、教員の教育研究活動だけでなく、大学院生や同窓生の専門診療を含めて一層の国際交流を推進します。

5. 研究の推進: ハイテクリサーチセンタープロジェクトが3年目を迎えます。継続して申請できるように、さらに歯学部から研究成果を社会に発信できるように、一層の研究を推進します。

6. 歯科病院の移転準備: 平成25年度以降の歯科病院の旗の台地区への移転をスムーズに進めるために、歯科病院の経営基盤の充実を図り、移転の青写真を作成します。

### インドとの交流プログラム

歯科病院長 岡野 友宏

インド・バンガロール市の歯科大学2校と同市内の歯科研修施設の先生方4名が4月1日から6日間、歯学部・歯科病院を訪問しました。その間、各々の専門分野である歯科放射線科、歯科矯正科、歯周病科にて広い範囲にわたる意見交換をしました。バンガロール市は世界を代表するIT都市であり、求められる歯科医療技術も高いそうです。そこで必要な研修を促すために若手歯科医師の交換プログラムの締結が訪問の主目的でした。写真は左から Drs. N.C. Mohan (Dental Care & Research Centre), N.S. Nagesh (Principal, R.V. Dental College), C.V. Mohan (Head, Dental Care & Research Centre Bangalore), and A.V. Ramesh (Vice Principal, Oxford Dental College)。



## 進級式挙行される

教育委員長 佐藤裕二

4月始めにD2からD6の進級式が挙行されました。従来の進級オリエンテーションではなく、昨年度からセレモニーとして開始した進級式です。学部長、学生部長、教育委員長をはじめとして、指導担任の先生方にも参加をお願いしました。共用試験を乗り越えてきたD5については3月末に登院式を行い、簡単な懇親会も行いました。国家試験の難化、共用試験の導入、進級判定の厳密化のなかで、学生たちは神妙な面持ちで参加していました。この緊張感を持続して勉学に励んでくれることを期待しています。



## 歯科医師国家試験結果

D6チューター会議 委員長 上條 竜太郎

第100回歯科医師国家試験結果が3月28日発表されました。今回は、全国受験者総数3,200名で、合格者数は2,375名、合格率は74.2%(私立大学69.8%, 国公立大学87.3%)でした。昨年度の合格率(全体で80.8%, 私立大学で77.4%)と比較して、本年度は合格率が大幅に低下し、昨年度より狭き門でした。本学歯学部からは新卒者104名、既卒者10名が受験し、それぞれ94名、6名が合格しました。合格率は87.7%で全国平均を大きく上回り、全国の私立大学中第3位でした。今回の成績は、本学受験生の努力と教員の親身の指導、そして昼夜を問わずご指導いただいたチューターのご尽力の賜と思われまます。この場をお借りして深く感謝申し上げます。昭和大学を取り巻く環境は厳しさを増すばかりで、国家試験成績は非常に重要な意味をもちます。今回の国家試験結果を詳細に分析し、次回は、教員、学生一丸となって卒業生全員合格を旨したいと思います。皆様のご指導、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

## 歯学部第6学年チューターに感謝状贈呈

D6チューター会議 委員長 上條竜太郎

歯学部は平成13年度よりD6チューター会議を設置し、6年生の学習支援(特に卒業試験や歯科医師国家試験対策)を推進しています。本会議の構成メンバーであるチューターは、補習講義、模擬試験の問題作成・試験監督・採点、個別指導、さらには学生の学力分析や国家試験自己採点など、あらゆる方法で学生の学力向上に努めており、その活動時間は昼夜

を問いません。近年、本学歯学部の歯科医師国家試験合格率は飛躍的に向上しましたが、この点に関して、D6チューターが果たしてきた役割は極めて大きいものです。D6チューターの日頃の貢献に対する感謝の気持ちをこめて、本年4月19日の教授会において、D6チューター(平成18年度)に対して、宮崎歯学部部長より感謝状が贈呈されました。

平成18年度のチューターは以下の通りです。

野中直子(口腔解剖学)、馬谷原光織(口腔組織学)、鶴岡正吉(口腔生理学)、上條竜太郎(口腔生化学)、森崎弘史(口腔微生物学)、入江太郎(口腔病理学)、坂井信裕(歯科薬理学)、玉置幸道(歯科理工学)、弘中祥司(口腔衛生学)、中村幸生(齶蝕・歯内治療学)、谷 千尋(齶蝕・歯内治療学)、伊佐津克彦(歯周病学)、船登雅彦(歯科補綴学) 若林克敏(歯科補綴学)、代田達夫(顎口腔疾患制御外科学)、羽鳥仁志(顎口腔疾患制御外科学)、渋澤龍之(歯科矯正学)、島田幸恵(小児成育歯科学)、下平 修(高齢者歯科学)、関 健次(歯科放射線学)、永尾 康(歯科麻酔科)、高橋浩二(口腔リハビリテーション科)(職名・敬称は省略)

## D5リスクマネジメントPBL実施

PBL委員会 浅里 仁

平成19年4月2日、6日に D5臨床前実習の中で「リスクマネジメントPBL」を実施いたしました。このPBLは、臨床実習を行う前に歯科治療時におけるショックを学習させるとともに、患者とどのようにコミュニケーションをとり、どのように診療するか考えさせる事を目的としました。コーディネータである歯科麻酔学教室の吉村節教授と基礎系6名、臨床系8名の教員が学生のファシリテータとして参加しました。PBLの資料は、本学歯学部の姉妹校であるオーストラリア・アデレード大学歯学部で使用されているビデオの一部を使用させていただきました。学生は久しぶりのPBLであったため、最初はとまどう部分もありましたが、途中からは真剣に議論を行い、学習をしていました。これから始まる臨床実習において様々な経験をするであろう状況を前もって意識できたと思います。今後は、学生、ファシリテータの先生からのアンケート、学習項目、プロブレムマップ、プロダクトなどを検討し、次回につなげて行きたいと思います。最後になりましたが、昭和大学歯学部PBLでの使用を快く許可していただいたアデレード大学 Townsend 教授に心から感謝いたします。



## D2 歯科病院での患者付き添い実習

高齢者歯科学教室 北川 昇

4月9, 16, 23日の3日間、歯学部第2学年を対象にユニット「高齢者の福祉と口腔の健康」の実習として、“患者付き添い実習”が歯科病院において実施されました。本実習は、歯学部の特徴的なカリキュラムであり、1年次から5年次までの継続的な科目である“社会と歯科医療”の一環として行われてきました。多くの歯科的知識修得前のD2の学生が、歯科病院を訪れる患者さんにマンツーマンで付き添い、その間のコミュニケーションを通じて、口腔疾患に悩む患者さんの気持ちを理解する事を目標としています。

当日は歯科病院の2階～4階の各フロアで、真新しい白衣に身を包んだ学生が、緊張した面持ちで患者さんに自己紹介する姿



見られました。最初は戸惑っていた患者さんも若干いらっしゃいましたが、会話が進むにつれ皆さん大変協力的で、治療が終わり会計を済ませる頃には、「勉強して立派な歯医者さんになってくださいネ」等の激励の言葉を頂く学生も多数いて、教員ともども感激いたしました。次年度も是非、実施したいと思っておりますので関係者各位のご協力をお願いするとともに、この場をお借りして感謝申し上げます。有難うございました。

## 歯科と内科の連携を考える会

世話人(歯科病院長) 岡野 友宏

本病院に総合内科が開設されて2年になります。この間、歯科診療各科を訪れた患者さんが内科を紹介されることが増えてきました。今回、これまでの経緯を振り返り、その存在意義を確かめながら、さらに連携を高めていく機会として、シンポジウム形式の会議「歯科と内科の連携を考える」会を設定しました。

現在、肉体的・精神的に様々な問題をもった患者さんが歯科を訪れています。例えば、今の学生が中堅歯科医師として活躍する20年後の2025年には後期高齢者が全人口の20%に達するとされています。老人は生活習慣病や血管障害を基盤にしたいわゆる老人症候群を有し、生活機能の衰退のため自立した生活が困難となっています。歯科医師はこうした老人を対象にして歯科医療サービスを行うこととなります。そこでは生活者としての患者さんの多様性に対応するきわめて高度な医療・歯科医療技術と、それを支える社会への洞察力、深い人間性が求められているといえます。したがって本会の趣旨は、昭和大学歯科病院の診療各科が患者さんに安全で高品質の歯

科医療を提供するために、いかに総合内科との連携を上手に行うかを検討することになりました。

今回は井上教授が総合内科のこれまでの経過を説明し、関連の深い口腔外科、高齢者歯科、口腔リハビリ科、歯周病科、歯科麻酔科から連携の実績とあり方について意見を頂き、最後に荏原病院の佐野部長からその長い臨床実績を基にしたお考えを伺いました。時間の制約から深まった討論になったとはいえませんが、今後、こうした会を催すことでさらに互いの理解を深め、臨床経験を通して昭和大学歯学部が目標とするいわゆる oral physician の育成プログラムが具体化するものと期待します。

## H19年度 科学研究費取得状況

研究活動委員会 委員長 上條 竜太郎

去る4月11日、文部科学省並びに日本学術振興会は、平成19年度科学研究費補助金の交付内定を公表しました。昭和大学全体では採択件数140件、採択金額は3億210万円で、件数では昨年度と比較して2件の減少でした。歯学部の採択状況は下表の通りで、採択件数は72件、採択金額は1億6,475万円でした。採択金額は4,177万円の増額ですが、これは、本年度より基盤研究Cに間接経費(研究機関の管理費等の必要経費部分)が認められたため、直接経費(申請者が研究に使える部分)が増えたわけではありません。種目別では、若手研究Bの新規採択件数が増加しました。間接経費の支給対象が拡大されたことは、科研費を多く持っている大学ほど補助金が多く配分され、研究環境の整備が進むことを意味します。歯学部が少しでも多くの研究費を獲得することは、歯学部の研究活動を円滑に維持するために必要であることはいうまでもなく、今後は私たちの研究環境の整備にも直結します。一方、歯学部の採択金額は、昭和大学全体の採択金額の50.3%にあたります。今秋の科研費申請に際し、申請資格をお持ちの先生は積極的にご申請下さいますようお願い申し上げます。

研究種目	平成18年度			平成19年度		
	採択件数		内定金額	採択件数		内定金額
	新規	継続		新規	継続	
基盤A	0	0	0	0	0	
基盤B	2	6	29,700	2	4	30,400
基盤C	17	17	54,800	13	20	54,800
若手B	6	18	32,100	15	11	32,100
若手スタ	3	該当なし	3,080	申請中	3	42,350
萌芽	1	2	3,300	1	3	5,100
合計	29	43	122,980	31	41	164,750

(採択金額は新規・継続の合計で、単位は千円)

(採択金額は間接経費を含む)

## 国際的に活躍する教員

歯学部長 宮崎 隆

本学部の多くの教員が海外に留学し、共同研究を行い、国際的に活躍しています。今回は口腔解剖学教室の野中直子助教を紹介します。野中先生は、米国セントルイス大学医学部へ平成13年7月より平成15年7月まで留学しました。帰国後も同大学医学部の Adjunct Assistant Professor(客員助教授)として、たびたび出張し、William A. Banks 教授と共同研究を続けています。この度「Aging Successfully(16巻5号, Fall 2006)」というセントルイス大学、同医学部病院とセントルイスVA医療センターなどが共同発行している雑誌に、「Japanese Visiting Scientist “Nose” Her Stuff」というタイトルで、野中先生の活躍が大きく紹介されました。先生は米国留学中からペプチドの静脈内投与、脳室内投与を行い脳内にどのように取り込まれるかについて研究を行ってきました。今回は最近の研究が紹介されています。ペプチドが鼻腔粘膜で吸収された場合の脳内での薬剤効果が明らかになれば、脳卒中を始めいろいろな脳疾患から脳を保護あるいは治療する薬剤の投与方法としての利用への道を開くものであり、人への投与負担が少ない点鼻薬として、予防薬または治療薬の開発が期待できます。記事の中で、野中先生は、「Dr. Naoko Nonaka teaches Dentistry at the prestigious Showa University in downtown Tokyo.」と紹介され、本学の名を宣揚してくれました。先生の益々のご活躍を期待しています。



「Japanese Visiting Scientist “Nose” Her Stuff」



Dr. Naoko Nonaka teaches Dentistry at the prestigious Showa University in downtown Tokyo most of the year. But a couple of times a year she returns to Saint Louis

University and the VA to continue the research she started when she was visiting scientist here a few years ago. Her latest work has been on the delivery of peptides and proteins to the brain via the nasal passages. Peptides and proteins have been suggested as treatments for various brain diseases, including Alzheimer's disease, alcoholism, stroke, multiple sclerosis, and neuroAIDS. But getting things into the brain is difficult because the blood vessels which feed the brain form a barrier to many potential drugs. Peptides and proteins also do not

cross the lining of the stomach and so, like the protein insulin, must be injected by needle to enter the blood stream. Dr. Nonaka is investigating a novel approach for delivering peptides and proteins to the brain that involves administration by way of the nose. Nerves that help us smell project directly from the brain to the top of the nasal cavities. These nerves can help to ferry substances from the outside world into the brain. Dr. Nonaka's work has shown that substances capable of protecting the brain from stroke can use this nasal pathway quite well. (Aging Successfully, Vol. XVI, No.5, Fall 2006)

## 専門医・指導医

広報委員長 五十嵐 武

七田 俊晴:日本補綴歯科学会専門医取得

## 行事予定

広報委員長 五十嵐 武

6月16日(土):昭和大学白菊の集い  
6月23日(土):昭和大学父兄会総会  
6月30日(土):昭和歯学会総会  
7月 6日(金):第12回夏季スポーツ大会壮行会

## 診療統計 (平成19年4月分)

医事課課長 長谷 孝義

	患者数	1日平均	前月1日 平均	前年1日 平均
外来患者	17,098	712.4	783.8	704.2
入院患者	400	13.3	15.2	10.3

(土曜日半日も1日として扱うため、平均は見かけ上下がっている)

## 編集後記

広報委員(歯科理工学) 堀田 康弘

世間では五月病という言葉が聞かれますが、こと昭和大学に関しては、学生も教員も五月病に罹っている暇があるなら、授業だ！実習だ！セミナーだ！と片時も休む間がなかったのではないのでしょうか。かくいう私も連休中は、締め切りや仕事のメールが気にかかり、休んだ気がしませんでした。逆に仕事をしていた方が安心だったりするのは、毒されている証拠でしょうか。ゴールデンウィークも終わり、あとは夏休みまで祝日のない日々が続きますが、皆様におかれましては無理をして体調を崩すことの無いようお気をつけ下さい。末筆ですが、今月は原稿依頼が連休明けとなってしまい、執筆していただいた先生方には、ご迷惑をおかけしてしまいました。この場を借りてお詫言申し上げます。